

# ゴロねこニャン吉奮闘記

紫 李鳥

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

女の子を助けようと奮闘する、ニャン吉の物語。

目次

## ゴロねこニヤン吉奮闘記

シーシー

昼食を終えたニヤン吉は、木陰でゴロゴロしながら、爪楊枝で歯の掃除中。

今、ご馳走になった焼き魚は、農業を営む山田さんちの。

少し開いてた台所の窓から忍び込んで失敬したもの。

悪いと思いなながらも、腹ペコになったら、理性も常識もへったくれもねえ。

あくあく、満腹、満腹。さて、めしも食ったし、昼寝でもするか……。

スヤスヤ……

グーグー……

ガーガー……

グアーツ！ガアーツ！

なっ！なんだ？……ああ、ビックリした。

自分のいびきで飛び起きたニヤン吉は、よだれを拭きました。

「わーい、わーい！川遊びだ。うれしいな〜」

ん？桃色のワンピース水着を着て、浮き輪を腰につけた人間様のガキんちよが、両親に手をつながれて、楽しそうにはしゃいでら。

……こんな俺らにも父ちゃんとお母ちゃんは居たんだろうな。ま、気にすることはねえか……。俺様は俺様だ。

はあくあ……。なんだよ、ため息なんかつきやがって、みつともねえ。弱音なんかはいたら、ゴロねこニヤン吉の名がすたるってえもんだ。このへんじゃ、ちつとぼつか名の知れた俺様——

「キヤーツー！」

ん？あの悲鳴は、さっきのガキんちよだ！

ニヤン吉は、ゴロゴロから一転して、機敏に身を起こすと、猛スピードで駆け出しました。

川まで行くと、浮き輪をつけたガキンちよが滝壺のほうに流されていました。

「タマーっ！」

ガキンちよのママが、泣き叫びながら、名前を呼んでいます。  
ん？タマ？元カノと同じ名前じゃん。

「タマコーっ！」

ガキンちよのパパが名前を呼びました。

ん？……コがつくのか。ま、いいや

ニヤン吉はピューマのように、しなやかに走ると、流されているガキンちよ、タマコに追いつきました。

タイミングよく、そばにあったぶっとい木のツルにぶら下がると、ターザンのように、

「ニヤ〜ニヤ〜ニヤ〜♪」

と、おたけびを上げながら、空中ブランコのように宙に舞い上がりました。

そして、滝壺に落ちる寸前のタマコの腕をネコ手でつかみ、川辺に上げると、

「……ヒック、……グズツ……ネコがたすけてくれたの？ヒック」

泣きじやくるタマコは、ヒックヒック言いながら、目をこすりました。

「ああ。だが、パパとママには内緒だよ。どっちみち信じちやもらえないだろうがな」

「わか……ヒック……った」

「じゃあ、あばよ」

「ありが……ヒック……とう」

「何い、いいってことよ。持ちっ持たれっだ」

「？……ヒック」

「じゃあな、あばよ」

ニヤン吉はそう言い残すと、林の中に消えていきました。

「タマコー！」

「タマちやーん！」

パパとママが走ってきました。

「大丈夫？ああ、無事でよかったわ。……誰に助けてもらったの？」

ママがタマコの頭をなでました。

「……ネコ」

タマコの言葉に、パパとママは顔を合わせました。

「……とにかく、よかった」

「ほんと、ケガがなくてよかったわ。さあ、帰りましょう」

パパとママがタマコの手を握りました。

「……しろくろのぎっしゅ」

タマコの言葉に、パパとママは目を合わせると、互いに作り笑いをしました。

「……しゃべったの。オスのネコ」

タマコの言葉に、パパとママは目を合わせると、またまた作り笑いをしました。

「……とにかく、ネコ騒がせなガキんちよだぜ。お陰で昼寝もろくすつぽで  
きなかった。」

「さて、晩飯は誰んちのを失敬するかな……。山田さんちばっかじゃ  
悪いから、林業の吉田さんちにするか……。」

では、それまで一寝入り、つと。

「……しろくろのオス」

ん？タマコの声だ。

「ずんぐりむつくりのぎっしゅ」

「……まったく、助けてもらって、その言いぐさはねえだろ？よりによって、  
ずんぐりむつくりの雑種だなんて。」

嘘でもいいから、血統書付きのシヤムとかペルシャとかかって、言っ

てほしかつたなあ……。

「つまようじ、くわえてた」

トホホ……そこまで言うかあ。

おわり